

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 佐野 栄紀

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 杉浦 哲朗

医学部長就任のご挨拶

橋本 良明



4 月1日付で医学部長に就任した橋本です。どうぞ宜しくお願い致します。私は高知医科大学に、法医学教授として平成3年に着任しました。約20年間、岡豊キャンパスで教員生活を送ったこととなります。昨年、還暦を過ぎました。この間、医学生への法医学教育に携わると共に、実務活動として、死因等の究明が必要となった高知県内の死者について、警察の嘱託を受け解剖による鑑定を行って来ました。死者を診察し診断を行っているイメージして頂ければよろしいかと思えます。千人近くの死者を診て、高知県の安心、安全、健康に係わる生活環境および医療、看護、介護をめぐる県内事情の一端を、法医学の視点から見てきました。着任当時は82万人ほどであった県人口が、現在では76万人近くに減少し、少子高齢化の実態とそこに潜む解決すべきさまざまな健康問題を意識させられています。医療現場での医療人のさまざまな気遣い、増加する心労も窺い知るところです。

さて、現代社会が直面する少子高齢化を背景とした国家経済活力の低迷等々へ対処するため、社会保障システムの再構築と税の一体改革が議論されていますが、東日本大震災被害の復興財源の確保、福島第一原子力発電所事故による電力供給システムの根本的見直し、議論を錯綜させているのはご承知のとおりです。戦国時代の武將武田信玄の言葉、「人は石垣、人は城」は有名です。大学を頂点とする教育機関としては、現時の国家的難局へ対処し、国家を

持続的に発展させるためにも、人材育成に全力を挙げるべきであることは言うまでもありません。中でも、国民の健康を守り維持する医療人材の育成は、国家活力の向上と持続につながる重要な基盤です。国立大学改革が叫ばれ、その強化推進事業として138億円近くの国家投資が予定されています。次期防衛計画で購入予定の最新鋭戦闘機一機の代金と大差がないか少ないくらいの予算であることを思えば、人材育成機関への国家支援としてはまだまだ些少との感を持ちます。

医学部と附属病院が連携を密に行う将来の医療を担う人材育成、地域への持続的な医師供給、地域の疾患構造にかなった先進的医療の開発と推進、地域医療の主導的牽引は、県民の健康維持への貢献だけでなく、少子高齢化が先行する本県において、住みよく、活力ある地域を復活させ、社会に元気を取り戻させる原動力になると考えます。その役割を担うため、医学部は附属病院の再開発、先端医療学推進センターの設置、新領域講座の開設などにより機能強化を図りつつあります。この動きは学生達の勉学意欲を一段と鼓舞する機会ともなり、卒業生の附属病院定着率の向上、医学研究活力の向上、本県への医師呼び戻しなどにも資すること大と思います。難局に直面しているこの時代、岡豊キャンパスに集う教職員と学生が一丸となって歩を進めていきたいと思えます。皆様方のご協力ご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

看護師が国際学会で発表ということ

看護部：救急部・集中治療部 壬生 季代

The 5th International Conference Advanced Technologies & Treatments for Diabetes Barcelona, Spain, February 8-11, 2012



このたび表題の国際学会(バルセロナ)に参加し、発表して参りました。2006年より外科1花崎教授の御指導下に人工臓器の研究に携わり、2010年の第48回日本人工臓器学会にてNurse Awardを受賞しました。

その後「Blood glucose control using an artificial pancreas reduces the workload of ICU nurses」を国際誌のJournal of Artificial Organsに掲載することが出来ました。ATTDでは世界中の研究者たちが自分の研究成果を積極的にアピー

ルし、ディスカッションしている姿に大いに刺激を受けました。発表はとても緊張しましたが、外国の方たちから「OK」と温かく迎えていただき、happyでした。自分たちの研究成果を高知から世界に発信できる事も決して夢ではないことを実感しました。今後この貴重な経験を後輩たちにも伝えていきたいです。最後に、これまで支援してくださった花崎教授をはじめとする多くの皆様に、心から御礼申し上げます。



就任のご挨拶



医療学系長

谷 俊一

この度、平成24年4月1日付けで橋本良明前医療学系長の後任として医療学系長を拝命いたしました。

私たちは今、30年の歴史を経た医学部に身を置いております。私はその歴史の黎明期(1981年)に赴任し、以来、直接の恩師はもちろんのこと、高知(医科)大学の学内・外の諸先輩、同僚、後輩など、数え切れない多くの人たちのお陰をこうむってやっとここまで育てていただきました。そろそろ引退の時期も近づいて、「少しはご厄介になった恩返しをしる」という天命のような気もしております。

現在、本学医療学系における最重要課題は後期研修医をいかにして増やすかということと実感しております。スーパーローテート臨床研修制度の弊害は、多少の誤差を甘くみて言うとするれば、医学部卒業生に以前から“ほどよく”存在していた「研修病院選択の自由」に軽忽にお墨付きを与え、その拙速さの副作用として、社会問題化するほどの医師偏在が生じたことであります。本医療学系におきましても、新たな後期研修医は毎年20人に満たず、基礎研究を担う人材不足が深刻化しております。古来、作って食べてがやっとなという時代には文化が育たなかったのと同様、社会が大学に求める教育水準と医療水準を維持するがやっとなという余裕のない人員では未来を支える研究(者)も育ちにくいでしょう。この難局の打開に向けてすでに尽力されている医学教育部門の先生方や今年度新たに開設された地域医療支援センターの皆様方の叡智を仰ぎつつ、少しでもそのお役に立てるよう努力したいと思っております。

私は同志社大学創設者の新島襄や早稲田大学を興した大隈重信が育てるべき学生像の理想とした「倜儻不羈(てきとうふき)」という言葉が最近になって知りました。「倜儻」とは、自分の考えをしっかりと持つこと、人がああ言うからといってそこへ行かないこと。「羈」は、手綱をつけて馬をおとなしくさせることで、「不羈」とは、人に御せられないことを意味する漢籍に由来する言葉であります。気の弱い自分に倜儻不羈の精神を失わないようにと言いきかせつつ、医療学系長の任務を果たしたいと思っております。どうかご支援のほどお願い申し上げます。



看護部長

楠瀬 伴子

この度、平成24年4月1日付けで、宮井千恵前看護部長の後任として、看護部長の辞令をいただき、戸惑いと

これまで以上の責任の重さを感じています。まずは、この紙面をおかりして皆様にご挨拶申し上げます。

看護部では、看護専門職としてエビデンスに基づいた行動が重要であると考え、平成23年度からの5カ年の看護部目標を「看護専門職として、自分のビジョン(将来像)を明確化し、キャリアのクオリティをたかめ、組織・社会へ貢献する」としています。この目標に向かって、各部署・各個人が様々な取り組みを行っており、自己のキャリアを認識し、能力を高めようとする姿勢を強く感じています。今後も看護職員自ら能力向上に取り組めるよう、個々の看護実践能力を評価し、キャリアアップを支援していきたいと考えています。これらの取り組みが、次第に大きくなっている看護職への期待、複雑で多様なニーズに応えられる看護職員の育成に繋がると考えています。

4月に新入職員を迎え、看護職員は総勢約570名と大所帯になってはいますが、病院再開発等を考慮するとまだまだ十分とは言えない状況であり、今後も引き続き職員確保に取り組んでいきます。そして患者さんとご家族の満足向上のために、患者さんの人としての尊厳と権利を尊重し信頼される看護の提供と、本院の職員として働くことにやり甲斐を感じ、働きやすい職場環境づくりを目指していきたいと思っております。

チーム医療の推進が言われはじめ久しくなりますが、看護師が「チーム医療のキーパーソン」となるよう、専門性の向上、他医療スタッフとの連携を図り、患者さんや医師その他の医療スタッフから寄せられる期待に応えられるよう取り組んでいきたいと思っております。そして大学の第2期中期目標、病院の方針等を共有しながら成長できる組織、各職員になりたいと思っております。

今後とも職員皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

高知大学医学部附属病院 ブラックジャックセミナー

高知大学医学部外科学講座外科1ブラックジャックセミナー実行委員長 花崎 和弘

君も
ブラックジャックに
なってみないか?

新臨床研修の導入が拍車をかけて、若い外科希望の医師が減少し、外科医不足が全国規模で進んでいます。このままでは近い将来、地域の外科医療は崩壊してしまうのではないかと危惧されています。こうした社会的背景に基づいて高知大学医学部附属病院では、若い世代に外科医および外科医療の素晴らしさを知っていただくことを目的に、四国では初めて平成19年1月より地域の中・高生を対象とした「外科手術体験セミナー」を開始し、外科手術手技の模擬体験を主体としたセミナーを毎年開催してきています。体験する模擬手術は毎年趣向を凝らし、このセミナーを通じて参加者たちに外科医療および外科医の世界に少しでも関心と興味を持っていただけるように工夫をしています。

2011年9月17日、18日には「ブラックジャックセミナー」と名称を変え、第5回が開催されました。第5回開催のセミナーでは、体験項目の中に新しく消化管内視鏡トレーニングシミュレーターが加わりました。そのリアルな映像や音声、感触に、参加者の満足度は非常に高く、大変な驚きと興味を示していました。

過去5回のセミナーに参加した県下の中学・高校生は延べ312名となり、毎回大好評をいただいております。そのため毎回募集人数の倍の応募をいただくことになって抽選となってしまいます。しかし、このように積極的なご応募をいただいている点は嬉しい悲鳴でもあります。ブラックジャックセミナーの生みの親であります長崎大学名誉教授の兼松隆之(かねまつ たかし)先生からも、本セミナーの充実度は全国トップレベルと高く評価されています。特に本セミナーを経験した参加者の中から26名(平成20年度:8名、平成21年度:5名、平成22年度:6名、平成23年度:7名)が高知大学医学部医学科に入学をしています。これは全国的にも注目されている快挙です。

高知大学医学部附属病院の貴重な地域貢献の一環として、高知県の中学・高校生に、外科医療および外科医の素晴らしさを知っていただくだけでなく、医療そのものにも強い興味と関心を持っていただく良い機会となるよう、これからも本セミナーをより一層充実させながら、実績を積み重ねていく予定です。



		高校生				中学生				計
		3年	2年	1年	計	3年	2年	1年	計	
第1回 (平成19年1月27日、28日)	男	1	20	6	27	0	0	0	0	27
	女	0	31	21	52	0	1	0	1	53
	小計	1	51	27	79	0	1	0	1	80
第2回 (平成20年1月26日、27日)	男	0	3	6	9	2	2	2	6	15
	女	0	26	12	38	3	0	0	3	41
	小計	0	29	18	47	5	2	2	9	56
第3回 (平成21年1月24日、25日)	男	0	15	2	17	4	1	0	5	22
	女	0	32	4	36	2	0	0	2	38
	小計	0	47	6	53	6	1	0	7	60
第4回 (平成22年3月27日、28日)	男	0	4	6	10	4	1	0	5	15
	女	0	20	15	35	2	6	3	11	46
	小計	0	24	21	45	6	7	3	16	61
※他 留学生(女子)1名										
第5回 (平成23年9月17日、18日)	男	8	4	3	15	0	0	0	0	15
	女	9	13	10	32	7	1	0	8	40
	小計	17	17	13	47	7	1	0	8	55
小計(学年別)		18	168	85	271	24	12	5	41	312



第1回開催…80名参加 第4回開催…61名参加
第2回開催…56名参加 第5回開催…55名参加
第3回開催…60名参加

研修医 表彰

今年度から研修医だけでなく、指導医のみなさん、看護師・コメディカルのみなさんへの賞も新設しました。

- ◆ベストパートナーシップ賞 — 7階西病棟
- ◆臨床研修功労賞 — 耳鼻咽喉科 / 青井 二郎 先生
- ◆優秀研修医 — 血液・呼吸器内科 / 荒川 悠 先生
- ◆優秀研修医 — 外科(1) / 北川 博之 先生
- ◆ベスト指導医 — 血液・呼吸器内科 / 井坂 真由香 先生
- ◆センター長特別賞 — 濱口 真由子 先生 (1,2位が僅差だったため、センター長特別賞をだすことになりました)
- ◆ベスト研修医 — 田代 未和 先生

医局長・外来医長・病棟医長一覧

平成24年4月1日現在

診療科	科長	副科長	医局長	病棟医長	外来医長
内科	◎西原 利治	岩崎 信二	岩崎 信二	耕崎 拓大	高橋 昌也
	寺田 典生	藤本 新平	西山 充	高田 浩史	次田 誠
	横山 彰仁	窪田 哲也	窪田 哲也	池添 隆之	大西 広志
	土居 義典	北岡 裕章	北岡 裕章	久保 亨	山崎 直仁
小児科	藤枝 幹也	久川 浩章	久川 浩章	佐藤 哲也	堂野 純孝
神経科精神科	井上 新平	下寺 信次	藤田 博一	藤田 博一	諸隈 一平
皮膚科	佐野 栄紀	樽谷 勝仁	山本真有子	高田 智也	横川 真紀
放射線科	小川 恭弘	西岡 明人	西岡 明人	刈谷 真爾	久保田 敬
外科	◎花崎 和弘	杉本 健樹	岡本 健	岡林 雄大	市川 賢吾
	渡橋 和政	西森 秀明	西森 秀明	久米 基彦	栗山 元根
麻酔科	横山 正尚	山下 幸一	河野 崇	北岡 智子 山下 幸一	北岡 智子
産科婦人科	深谷 孝夫	前田 長正	泉谷 知明	前田 長正	池上 信夫
整形外科	谷 俊一	武政 龍一	武政 龍一	永野 靖典	木田 和伸
眼科	福島 敦樹	福田 憲	小松 務	西内 貴史	松下恵理子
耳鼻咽喉科	兵頭 政光	小林 泰輔	小林 泰輔	小森 正博	西窪 加緒里
脳神経外科	清水 恵司	中城 登仁	中城 登仁	藤本 康倫	中居 永一
泌尿器科	執印 太郎	井上 啓史	辛島 尚	田村 賢司	鎌田 雅行
歯科口腔外科	山本 哲也	山田 朋弘	山田 朋弘	北村 直也	笹部 衣里
総合診療部			武内 世生	小松 直樹	武内 世生

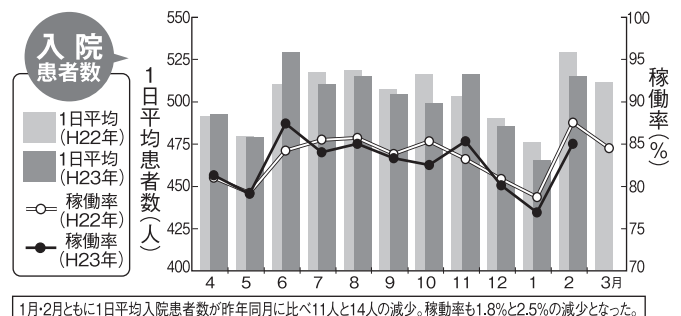
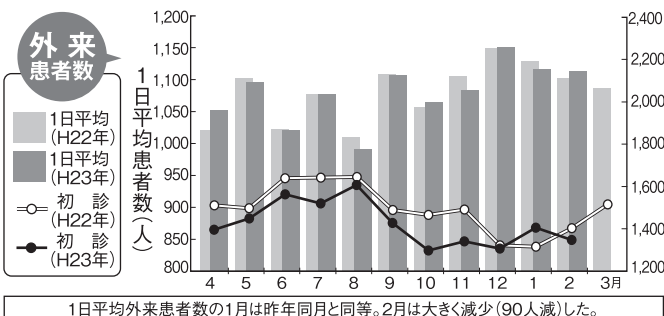
◎は主任科長

平成24年度 病院ニュース編集委員会委員名簿

任期:平成24年4月1日~平成25年3月31日

- ◆ 委員長:佐野 栄紀(皮膚科 科長)
- ◆ 委員:西岡 明人(放射線科)
- ◆ 委員:多田 邦子(看護部 副部長)
- ◆ 副委員長:山本 哲也(歯科口腔外科 科長)
- ◆ 委員:岸 茂(眼科)
- ◆ 委員:岡村 一也(総務企画課 課長補佐)
- ◆ 委員:市原 和彦(薬剤部)
- ◆ 委員:大野 憲昭(医事課 課長補佐)

診療状況



編集後記

東日本大震災から丁度一年が経過した3月14日に、三陸沖と千葉県で震度4~5の地震がありました。この時職場の同僚が千葉に出張中でホテルの11階におり、かなり揺れて怖かったと話していました。被災地では余震が続いていますが、工場の再開や漁の復活、選抜高校野球での活躍など明るい話題も聞こえてくるようになり、復興に向けた人々や地域の力強さを感じます。

平成24年度は新たに医学部長、医療学系長、看護部長が就任され、また初期臨床研修を終えられた先生方の旅立ち、新病棟建設工事開始と附

属病院も変化の時を迎えています。

今回、新しい試みとして、広報「こはすくん」に患者会「とさあいの会」の事務局長 川添様からご寄稿をいただきました。会の発足や活動について、皮膚科の先生方との連携について述べられており、患者さんとともに歩む医療をご紹介いただきました。

今後も、附属病院で行われている医療や活動、働く人の顔が見える病院ニュースをお届けしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(文責:看護部 岡林 安代)